

玉名市 景観学習会だより 3号

景観とは何か、堀繁氏を迎え講演会を開催

プログラム

平成 27 年 1 月 28 日（水）
9：30～11：30

1. 開会
2. 講演
堀繁氏
東京大学
アジア生物資源環境研究センター長・教授
3. 質疑応答
4. 閉会



玉名市では、平成26年度、平成27年度の2カ年をかけて、「玉名市景観計画」の策定に取り組んでいます。

そのため、玉名市らしい景観のあり方を考える「景観学習会」を開催しています。

平成27年1月28日に、第3回となる景観学習会を、東京大学アジア生物資源環境研究センター長・教授の堀繁氏をお招きして開催しました。

景観の定義や沿道まちづくりのポイントについてお話をいただき、景観に対する理解を深めました。

■堀先生のご公演の概要

◇景観とは何か

- ・景観とは見ること：見て理解の手がかりを得ることで、地域を理解する行為が景観である。そのため、瞬間的にその地域の評価がなされる。

◇良い景観とは

- ・（見たいもの）が（見やすい）状態にある
- ・（見たくないもの）が（見えない）状態にある

◇悪い景観とは

- ・（見たいもの）が（見にくい）状態にある
- ・（見たくないもの）が（見える）状態にある

- ①他のものに邪魔されないこと
- ②見えの大きさが程よいこと
- ③最も見たいものが一番大きいこと

◇人は何を見るのか

- ①理解の手がかりを探すため
- ②ホスピタリティ表現
- ③その人の興味を引くもの（人によって異なるため景観の対象としない）

○特に「ホスピタリティ表現」、おもてなしの形、「あなたのことを大切にしますよ」という表現が重要

⇒建物の良い悪いと景観の良い悪いは異なり、良い建物でもホスピタリティ表現が重要（のれん、ベンチ、開放された入り口など）

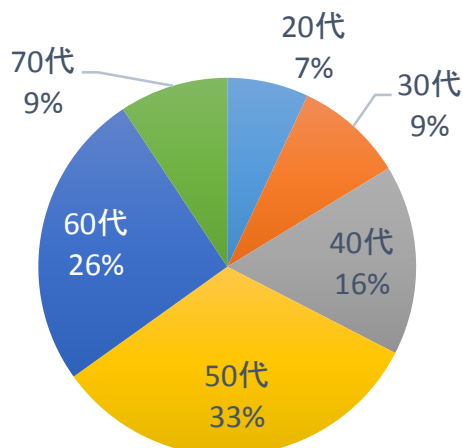
⇒あなたのことを歓迎しないという表現はマイナスになる（壁、ガラス戸、垣、塀など）

⇒沿道整備の場合は、1階部分、入り口の舗装など人の視点から見える範囲にホスピタリティ表現をすることが重要。

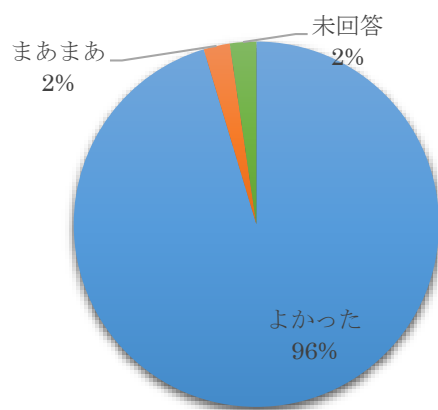
玉名市景観学習会 参加者アンケート結果

学習会出席者	72 名
アンケート回答者	43 名
アンケート回答率	59.7 %

年齢



学習会全体の印象



印象に残った言葉や感想(抜粋)

- ノウハウだけではダメ。スキルが必要
- まちづくりは「さくら」づくり
- 若い女性が来るような整備
- 景観の定義 基本的なことを教えてもらって本当にためになった。わかりやすく、とても良かった。
- ホスピタリティの重要性がわかった
- 自己領域の大切さが◎
- おもてなしの気持ちを形に表すことが大事さと思いました。
- 新しい表現、話が聞けて大変良かった。大変勉強になりました
- 良い景観の定義やホスピタリティ表現の重要性が明確に理解できました。
- いくら建物が立派なものでも心が感じられなければアウトである
- 人間に対する心づかいが重要である。
- ホスピタリティについて、意識もなく知識もなかったのもとても興味深かった
- 景観について目からウロコでした
- まちづくりは道が大切
- 舗装とベンチ、ベンチの数と密度

今後の玉名市の景観づくりについて(抜粋)

- 課題の抽出がキモになると思いました。
- 人が立ち止ってくつろげる場、そして、カメラを向けたいもの「見たいもの」は「見えやすい」場をつくる努力が必要だと思います
- 浴衣で歩ける温泉地への整備の必要を感じた。
- 市民の意識をかえる勉強会や企画をたくさんつくってもらいたい
- 昔の高瀬のにぎわいの復活です。
- 高瀬蔵や裏川など素敵なポイントがたくさんあると思う。
- 徹底すること
- 駅前の景観整備が必要では
- おもてなしの心を市民あげてディスカッションする
- 景観の良いところを見て回る。人、物、事をつなぐ努力
- ノウハウがあってもスキルがないとダメという事はどうすれば良いか
- 道路と沿道の問題を今一度見直しする
- 高瀬の街並みを活かしてもらいたい
- 昔ながらの街並みを見せるように滞留地をつくる必要がある